

社会構造論2005-2

社会構造の概念

社会学と他の人間システム科学諸科学との相違

- 心理システム 人間の知情意
- 行動システム 人間の関係(実験と調査)
- 社会システム 社会関係を地域と階層的次元、及び個々の社会集団に即して見る
- 地域システム 人間、社会の環境を地域的次元で見る

- この説明で分かりますか？

人間、社会に対する抽象度の違い

自然科学的次元	社会科学的次元		人文科学的次元
普遍性			個別性
類的普遍性	關係的普遍性	集團・地域的普遍性	個別的 人間の普遍
心理学(認知の実験)	社会心理(集團実験)	社会学・地域科学学	哲学・歴史・文学的個人

方法論的認識

- 1) 演繹的アプローチ 心理学・社会心理学：
モデル化による説明
- 社会学原理論 社会関係・集団・システム
のモデルによる社会認識の体系化
- 2) 帰納的アプローチ 下位分野別社会学
社会現象、事例から普遍的要素を見いだす
- 歴史・文学 個別性に意義あり 但し、普遍
性を指向する動きもある。

社会という言葉

- 社会 明治の造語 福地源一郎 society
- 人間が共同生活を営む際に、関係の総体として出現するもの 自然発生的なものとは人為的なものがあるが、家族もまた社会的・人為的である。つまり、男女が性的関係を持ち、子孫を繁殖させるのは自然であるが、配偶者選択、子の養育に関する規制、婚姻統制がある。

富永健一「社会構造の基礎理論」安田三郎他編『基礎社会学 5』東洋経済新報社、1981年、5頁。

- 「社会構造論という社会学の一つの研究領域は、国民社会やその諸部分社会が、街頭の群衆のように構造化されていない状態にあるのではないこと、とりわけ高度に産業化された社会にあってはそれ固有の特性を備えた構造的パターンを発達させていることを、経験的に認識することを目的とした分野である。」

構造的パターンによって現象を説明

- 個人の行動を縛るもの、或いは、2者関係のパターン(愛情、尊敬表現;慣習や地位に基づく)として見えてくるものを、個人のパーソナリティ以外から考察するために。社会的動物といわれる人間、社会的規定、こうした社会的の内容を分析するために、社会構造という概念化が図られた。
- 例:夫婦げんか 離婚の類型(制度と階層・地域的制約がある 北海道と沖縄 離婚率上位県)

社会の構造化

- 1 人間の行為は自然だけでなく、他者(人間)及び社会を志向している。ここでは、他者との場合を考察してみる。 人と人との間
- 2 対面状況において、人は一見の相手(対応は相手への値踏みにより、慣習により決定)や持続的に関わる相手と出会うことになる。 関係の発生

- 3 持続的な関わりの中で、相手の自分への期待、意図を理解し、それへの対応を繰り返していく中で(相手も自分に対して同様の行為をなす)、お互いの期待が合致する状態(相手の期待に合わせて行為を修正していく割合が極めて低くなる状態)に達するとする。その時、両行為者の間に恒常的な行為パターンが成立する
- 相互行為の構造化

- 4 しかし、両行為者は、それぞれの意図や状況の変化に対応して行為を変えてくるから、完全な均衡状態の持続を想定することは非現実的
- 例：二人の男女の出会い
- 相手の出方を探る、意志を押し量る
- 好意が同程度に近い量 相愛の関係として深化していく
- 許容できる好意 さらに出方をうかがう期間の持続
- 拒絶 一方が失恋を味わうか、誤解に基づくストーカーとなるか

参考

- 相互行為における相互主観的理解の制度化(客観化)、正当化(社会集団レベルも含む)、内在化の過程を分析したものに、バーガー、ルックマン『日常世界の構成』新曜社、1977年。Peter L. Berger and Thomas Luckmann, The Social Construction of Reality, 1966
- 応用範囲: 宗教(教会の外に救い無し)、政治(派閥の力学)、医療・ケア(ナラティブ・セラピー)